



2015 (平成27) 年度 中央研修会での法話の様子

混迷の中に聴聞は深まる

仏教壮年会連盟講師

石川教区

谷間 徹誠



仏教壮年会の皆様には世情不安の中ですがお元気で過ごして下さるか。

今年は初春から、日本国内はもとより、世界規模での『新型コロナウイルス感染症』の大蔓延により、私達は大きな不安と恐怖の日々を余儀なくされました。先ず、この悲縁により亡くなられた多くの方々とご遺族の皆様、罹患されて未だ療養中の皆様に、朋友共ども心より哀悼とお見舞いの気持ちを共有したいと思います。

国内では5月末に至って漸く新

朋友

第25号

2020 (令和2) 年
7月15日発行

発行所

京都市下京区堀川通花屋町下ル
仏教壮年会連盟広報委員会

題字：理事長 宮南 靖

「朋友」とは、同信のなから。2008 (平成20) 年4月の仏教壮年会連盟発足にあたり、仏教員が力を合わせ、ともに歩みを進めていこうという願いから名づけられました。

たなウイルス感染者の数の減少が確認され、発令されていた「緊急事態宣言」も一斉解除となりました。決して油断は出来ませんが一応の区切りを迎えられたことは有り難いことです。これからはコロナショックに疲弊した人間社会、あらゆる面で従来より、より良い立直しと活性化に向けて、人と自然には謙虚に、そして慎重に力強く新たな歩みを踏み出して参りましょう。

一方、日頃から仏縁に包まれて生かされている私達は、このたびの自然災害とも言える非常事態の渦中を生きながら、今だからこそ素直に聞ける仏様の仰せの確かさに多くの出会いと領きを頂けたお方も多かったのではないですか。

あらゆる知識学識を誇りながらも一寸先の事象も見抜けぬ暗闇の今に迷うのが「汝、無明の凡夫」と、只今の私のありのままの姿を先刻明るくお見抜きくださったみ仏、そのお方こそ「光といのちきわみなき阿弥陀ほとけ」様でありました。見抜いたゆえの驚きと悲しみが「どうか救われてくれよ・拯ねばやまぬ・お願いだから私にあなたをたすけさせよ」と阿

弥陀仏の切なる願いが發起され、ついに凡夫私が迷いの中に在りながら、まだ見ぬアシタを「明るい日」と書いて、迷わなくても良い大安心の一道を強く生き抜くことの出来る確かな力、その働きこそが阿弥陀様の願成就せられた『ナモアミダブツ』のお名号でありました。

見えぬ私に聞こえ届いてくださる阿弥陀如来のお名告りに、既にインプットされている阿弥陀様の本願他力の不思議力を素直に聞きうけるのです。この上からは、いつも願われ拯ねられてある身の安心と嬉しさを「お念仏」の声で歌い上げ、如何なる境遇にあつても決して一人じゃない、常にみ仏様と共にある賑やかさと、喜びと感謝の心の豊かさを大切に相続し、「共に凡夫」の気づきのもと、仏様の願いを生きる「念仏者の生き方」をみ教えに学び、自他共に心豊かに生きることのできる社会・御同朋の社会の実現を目指しましょう。

感染症のリバウンドに注意を怠らず、常に他をおもいやりつつ極力、三密を回避して新たな生活様式を模索して参りたいものです。

合掌

『共にあゆむなかま』

仏教壮年会連盟新任講師

東北教区

足利

一之



私たちのお寺には、65歳を境に仏

教壮年会と正信会と2つの会があり

ます。壮年会の前身は若草青年会と

いい、昭和20年代に先代住職が近所

寺での勉強会から十和田湖周遊に富

士山登山など語りつくせぬ思い出が

あるそうです。その後、仏教壮年会

が発足し全国大会やブロック大会

教区や組主催の研修会へ積極的に参

加。平成11年、本山の規約改正に伴

い当時60歳を境に分派し2つの会と

なりました。

両会共に、お寺で勤まる年間法要

の際には事前準備から当日の受付、

駐車場係、司会進行、写真撮影等に

携わり、また「キッズさん」では仏

参後のレクリエーションを担当し、夏

キュー、秋は中高生対象で芋煮会を企画運営するなど実践的な活動をしてくださっています。

実質OB会である正信会は、毎月

20日の定例会で会員が調声し正信偈

の拝読。毎年秋には、ご旧跡巡りや

近隣の真宗寺院を訪ねる移動研修会

を実施しています。

壮年会では、なかまの輪を広める

べく訪ねた秋田県横手市のお寺さん

の茶話会で、寺院毎の単位会結成が

難しく、組として壮年会を結成する

計画を聞かせていただき、柔軟に組

織拡充に取り組まれる姿に感銘を受

けた研修旅行となりました。

2011(平成23)年、東日本大震

災で甚大な被害を受け寺院活動を休

止せざるを得なくなりましたが、全

を続けてくださったお陰で、壮年会活動、常例法座、初参式、キッズさん、3つの婦人会のお講など、老

若男女みんなが集まる賑やかなお寺

として復活。心新たに日常生活を取

り戻しつつある只中に、第22回全国

仏教壮年東北大会(平成29年9月2

日)を開催できたことは大きな喜びとなりました。

全国より1300名が参集し、こ

んなにも大勢の壮年世代がいること

をあらためて知らされると同時に、

翌日には被災地まで足を運んでくだ

さり、今なお多くの方々が私たちの

ことを案じてくださっていることを肌

身に感じる大会となりました。

現在、新型コロナウイルスの影響

で再び寺院活動や日常生活に影響が

及んでいますが、不安の絶えない世

の中を1人ぼっちで寂しく歩む人生ではなく、たとえ離れて暮らしていても、誰かの悲しみを我が悲しみとして涙を流し、誰かの喜びを我が喜びとして笑顔で接してくださる、そんななかまが居ることを知らされた今、心に余裕のある人生へと転じられた幸いです。

南無阿弥陀仏のお念仏を心の拠り所とするなかまとの出会いが、私たちの心の支えとなってくださっているように、また何時の日か1日でも早く1人でも多くのなかま「朋友」が出会える日を心待ちにしています。

◆本年度新規単位登録名簿

2020(令和2)年4月1日
2020(令和2)年6月30日

教区	組名	寺院	単位会名
北海道	北見東	佛願寺	佛願寺壮年会
備後	沼隈南	光源寺	光源寺仏教壮年会
佐賀	三根	正安寺	正安寺仏教壮年会
鹿児島	東隅	金剛寺	金剛寺正信会

登録単位数 2,513単位

『心豊かに生きる』

仏教壮年会連盟新任講師

岐阜教区 高田 篤敬



このたび、仏教壮年会連盟の講師をさせていただくことになりました、岐阜教区の高田篤敬でございます。

今年のNHK大河ドラマ「麒麟がくる」では、明智光秀が主人公として描かれています。特に前半(これまで)の舞台となったのが美濃の国、現在の岐阜県です。

岐阜の地名の由来は諸説ありますが、今から四百数十年前、丁度大河ドラマで描かれている時代に織田信長が、中国の故事から選んで「岐(わかれみち)の阜(おか)」と名付けたそうです。それまで「稲葉山城」とよばれた金華山は「岐阜城」となり、「人生の岐路にのぞんで、大きな頂きをめざす阜に立つ」という信長の志を窺い知ることができます。

中国の故事から学ぶことも多いの

ですが、その1つに「人間万事塞翁が馬」というものがあります。ここで詳しくは申しあげませんが、日々の1つ1つの出来事に一喜一憂して過ごすことの愚かさをたえています。

私たちは、便利な世の中を迎えることができました。遠く離れたところで起こったことも、瞬時に知ることもできますし、明日の天気もわかるようになりました。暑い日には涼しく、寒い日には温かく、便利に快適に過ごすことができます。その一方で、思いがけないことが起こったり、思い通りにならないことが起こると、うろたえてみたり、あてにならないものを頼ってみたりと、一喜一憂の繰り返しなのかもしれません。

第25代専如ご門主はご親教「念仏者の生き方」のなかで「『諸行無常』

とは、この世界のすべての物事は一瞬もとどまることなく移り変わっているということであり、『縁起』とは、その一瞬ごとにすべての物事は、原因や条件が互いに関わりあつて存在しているという真実です。したがって、そのような世界のあり方の中には、固定した変化しない私というものは存在しません」と、仏教を通して私のすがたをお示しくださいます。その私の生きる道を親鸞聖人のみ教えに聞き、自他ともに心豊かに生きる社会の実現を仏教壮年会の皆さまと共にめざしていきたいと思ひます。

どうぞよろしくお願いいたします。

「愛唱歌」歌詞募集

2023 (令和5) 年にお迎えする「親鸞聖人御誕生 850 年・立教開宗 800 年慶讃法要」を機縁に制作される「愛唱歌」の歌詞が公募されることとなりました。世代を超えて長く広く親しまれ、皆が一緒に歌って元気になれる歌詞の募集に、あなたも参加してみませんか。締め切りは9月30日です(必着)。

応募方法等の詳細は浄土真宗本願寺派ウェブサイトをご覧ください。



皆さまへご報告



仏教壮年会連盟講師の高橋哲了先生が2020 (令和2) 年6月26日にご往生されました。2008 (平成20) 年より仏教壮年会連盟の講師として、長年にわたりご教導を賜りました。ここに謹んでご報告させていただきます。

『いのちのゆくえ』

仏教壮年会連盟新任講師

備後教区

きたやま
北山

ゆうしょう
祐章



潮待ちの港、風待ちの港で栄え、瀬戸内の海路の要所であった広島県鞆の町の近くから、この度全国の仏教壮年会の皆様と研鑽を深めさせていただくご縁を頂戴しました。

私のお寺では仏教壮年会を結成して、まだ日が浅く会員数も少ない中で、毎月の例会、お寺の環境整備、諸行事への参加など積極的に活動しています。現在、会の悩みは高齢化にともない会員数が減っていることです。しかし、会員は「私がお寺へ参り、私がお聴聞する。その姿を子や孫へ伝えたい」という思いで活動を続けています。

3年前前に壮年会に入会された男性が、先日私にこのようなことを話してくださいました。「私は父も母も早く亡くしました。結婚して家庭を持ち一生懸命働いてきました。や

がて子どもたちも独立し、さあ、これから趣味を楽しみ、妻とゆつくり過ごそうと思っていた矢先、妻の病気がわかりました。悪性腫瘍でした。医師からは半年の命と告げられました。本当に辛い毎日でした。やはり病気は快復することなく8ヶ月後に亡くなりました。それから独りになった私に、いろいろな新興宗教からの誘いがありました。最愛の妻も亡くなり、やがて私もその時がくる。亡くなった妻はいつどこに行つたのだろうか。私はどこへ行くのだろうか、と考え、とても不安な気持ちになりました。そのような時、お寺から一通の便りが届き仏教壮年会を知りました。毎月の例会では、仏事作法や仏教とは…浄土真宗とは…とお聞かせいただき、少しずつ心の中が晴れていきました。私の歩む

方向が明らかになっていくようにでした。死んで終わりになる『いのち』ではなく、私はお浄土へ生まれさせていただく『いのち』を歩んでいるのです。そして、仏様にしていただき、また妻と会える世界をよこばせていただく幸せ者でした。この仏教壮年会にご縁をいただき、多くの方に出会い、いろいろな思いや、悩みを語り合える。そんな友がここにいる。有難いことです」と話してくださいました。

私の住んでいる町は、古くから海運業が盛んです。今でもご門徒の中には船主や乗組員の方がおられます。ご門徒の法事へお参りした席で、船の乗組員さんが海の上で苦勞された話をよく聞かせていただきました。春先の海は潮の流れが速く、そのうえ霧が出はじめると一寸

先が見えなくなり、船を操るのが大変だったそうです。その時行き先を示したのは羅針盤でした。海図と羅針盤を頼りに瀬戸内の難所を越えて行かれたそうです。

思えば私たちの人生もやがて終えなければなりません。この一度きりの『いのち』は今どこへ向かって歩んでいるのでしょうか。仏教壮年会の活動を通じて『いのち』のゆくえを明らかにしてくれる確かな羅針盤を訪ねていきたいと思ひます。

第23回 全国仏教壮年備後大会

「大輪のバラとかがやく朋友の輪」

中止のお知らせ

2020(令和2)年10月31日(土)に開催を予定しておりました「第23回全国仏教壮年備後大会」につきましては、新型コロナウイルス感染症の流行に鑑み、予定期日での開催を取り止めることとなりました。

なお、延期開催等、今後の対応につきましては、決定次第速やかにお知らせいたします。

